

2020年室内環境学会学術大会 学生懇談会実施報告

大石 真菜¹⁾, 船水 純那¹⁾, 鰐川 雅花¹⁾, 高橋 崇²⁾, 高橋 史弥²⁾

¹⁾静岡県立大学 〒422-8526 静岡県静岡市駿河区谷田52-1

²⁾東北文化学園大学 〒981-8551 宮城県仙台市青葉区国見6-45-1

Report on the 12th practice of student meeting held in annual meeting on Society of Indoor Environment, Japan 2020

Mana OISHI¹⁾, Junna FUNAMIZU¹⁾, Madoka WANIKAWA¹⁾, Shu TAKAHASHI²⁾, Fumiya TAKAHASHI²⁾

¹⁾University of Shizuoka, 52-1 Yada, Suruga-ku, Shizuoka-shi, Shizuoka 422-8526, Japan

²⁾Tohoku Bunka Gakuen University, 6-45-1 Kunimi, Aoba-ku, Sendai-shi, Miyagi 981-8551, Japan

Key words: 学生懇談会(Student Meeting), 交流(Interaction), ディスカッション(Discussion)

1. はじめに

本学会における学生懇談会は今年で12回目を迎えます。学生懇談会は、本学会の学生活動をより盛んにすることを目的とし、学会に参加する学生同士の親睦や情報交換の場として活動しています。学生懇談会は2009年に第一回が行われてから毎年開催され、大学や専攻・学年の垣根をこえて交流が行われています。今回の第12回の学生懇談会では18名の参加があり、新型コロナウイルス感染拡大防止対策をとったうえで、盛り上がりました。本報告書では当日の進行と記録を、学生世話人が参加者を代表して報告します。

2. 実施概要

日時：2020年12月3日（木）13：30～15：00

場所：郡山市中央公民館 講義室8・9・10

テーマ：COVID-19

学生世話人：

大石真菜（学生会員，静岡県立大学）

船水純那（学生会員，静岡県立大学）

鰐川雅花（学生会員，静岡県立大学）

高橋 崇（学生会員，東北文化学園大学）

高橋史弥（学生会員，東北文化学園大学）

プログラム：

1) 開催趣旨説明

2) 参加者の自己紹介

3) グループディスカッション

4) 内容発表

5) まとめ

参加者：静岡県立大学（9名）、東海大学（6名）、東北文化学園大学（2名）、日本大学（1名）計18名

3. 実施内容

3.1 開催趣旨説明

今年は、世界的に新型コロナウイルス感染症が拡大し、私生活だけではなく研究生活においても様々な影響を及ぼしたと思います。どのような影響があったのか、それに対してどのように対応してきたかを、自由にディスカッションしていこうと考えました。この懇談会で様々な学生が、十分な広さと換気量がある部屋に集まり交流することで、この困難な状況を共有し、今後の学生生活の参考にできる交流の場にしたいという意図から、テーマを「COVID-19」としました。

3.2 参加者の自己紹介

学生懇談会は参加者の自己紹介から始まりました。所属大学と学年、氏名をいただきました。自己紹介の時間が過ぎていくにつれ、各自の緊張もほぐれ、和やかな雰囲気になりました。



写真1 自己紹介の様子



写真2 グループディスカッションの様子

3.3 グループディスカッション

今回の学生懇談会では、より多くの他の大学の学生同士が交流できるように、グループを作りました。今回は2つのテーマについてグループで議論しました。学生世話人からテーマが与えられ、参加者が与えられたテーマに沿って時間内で自由に意見を出し合い、各グループで意見をまとめて発表しました。今回のテーマは①コロナ禍における大学生活・私生活・大学の対応、②今後の進路について、としました。テーマについて、一人一人が意見を出すだけではなく、学生同士で質問しあったり、互いの経験を話したりするなどして、自由な雰囲気では話して共有しました。コロナ禍での開催となったため、マスクの着用や換気、距離を保つなどの対策を取りながらでしたが、楽しい雰囲気では話合っていました。

1つ目のテーマは「コロナ禍における大学生活・私生活・大学の対応」について各グループで自由に発言しました。そして、グループ内で出た内容をグ

ループの代表者が発表し、グループ内だけではなく、参加者全員で意見を共有しました。新型コロナウイルスによる学生生活の変化や大学の対応として、構内への立ち入り制限や講義のオンライン化など大部分では同じような状況であり、思うように研究生活を送ることができないという意見が多く出ました。しかし、大学によって対策の厳しさや期間が異なっており、大学の規模や立地などが要因であると考えられました。各グループ内でディスカッションしていく中で、それぞれの参加者の生活の様子を垣間見ることができ、各グループの参加者同士が打ち解けていくのがわかりました。

2つ目のテーマ「今後の進路について」では、就職活動や進学に関して、学年を超えた交流であるが故の、現状での悩みや不安、それぞれの経験に基づいたアドバイスを出し合いました。さらに多くの学生と交流を深めるために、1つ目のテーマを話し合ったグループとは別のグループに分かれ、ディスカッ



写真3 学生懇談会 集合写真

ションしました。コロナ禍での就職活動に不安を感じている学生も多く、就活活動を終えた学生から就職活動がオンラインとなったことによるメリット、デメリットを聞き、今後の就職活動の参考になる話し合いが行われました。

4. まとめ

今回の学会は、新型コロナウイルスの影響でハイブリッドの開催と、これまで以上に直接交流する機会が少ない中、学生懇談会では対策を取りながらの交流ができ、有意義な時間を過ごすことができたと感じています。この学生懇談会を通して、今後の研究生活だけではなく、社会に出た後にも大いに有意義な活動であったと思います。